

## 1. 園の教育目標

共に生きていくために必要なことが形成されていく最も大切な時期の幼児期。幼い子ども達も大人も共に社会の一員として豊かな成長が得られるように願い、次の3項目を中心に保育しています。 ①キリスト教保育 ②のびのび保育 ③自由・総合保育
---

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

・本園の教育方針、指導計画の再確認を行い、内容を検討し、保育内容、施設の改善に取り組む。 ・研修等を通じ、保育教諭の専門性・資質を向上し、保育に反映する。
--

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育要領、教育課程、子どもの実態を基に指導計画を作成する。	・幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、学年ごとに年、学期、月、週毎に保育案を作成し、保育に反映させている。また、日々の記録を参考に子どもの実態を把握し週案の作成に反映させ、課題を園長、主任と話し合い、加筆訂正を行う。
保育教諭の資質、教育の向上のために研修等を充実させる。	・各保育教諭は、山口県私立幼稚園協会、岩国市私立幼稚園協会、山口県特別支援教育推進室、岩国市子育て支援、日本基督教団西中国教区、保育業者主催の各研修会に積極的に参加した。 また、ただ参加するだけでなく報告書を作成し、回覧することにより情報、成果の共有化を図った。 ・毎月末の職員会議に加え、各行事や日々の反省や気づきを保育後に話し合い、保育教諭一人一人の資質の向上につなげる。
外部講師による研修	・月1回、広島よりダンスの先生を招いてリズム遊びを行う。3歳以上児を対象に、クラスごとにリズム遊びを楽しんだ。年長組は4月よりダンスに取り組み10月の運動会で披露した。保護者からも好評で、他のクラス保護者も1年後を楽しみにされている。 支援を必要とする子どもたちもそれぞれのペースで行う事が出来た。これからも続けていきたい。
子育て支援の充実	・日々の一時預かりを実施し、保護者の急な用事に対応する。7:30から8:30の早朝保育も利用があり、保護者に好評である。 ・保育園部分の一時預かりでは、産前産後、基地工事関係者米国からの帰省等で、1歳児から5歳児まで預かった。 ・週1回の未就園児親子登園も幼児体操など、年間で計画を立てて行った。6月・12月・3月に行われた親子コラートは、幼稚園、保育園の保護者にも喜ばれ次年度も計画の予定である。

・子どもたちへの安全教育	・火災、地震、水害の避難訓練を月1回の計画で行っており昨年できなかった不審者の訓練も行った。子どもたちは、緊急放送の聞き方、避難の仕方もう上手になっている。 ・防災への取り組み、災害に備えたマニュアルの見直しをするともに保護者との連携をどのような形でとるかを検討していかなければならない。 ・学期ごとの交通安全教室、年1回の踏切事故防止安全教室は外部より講師を派遣していただき、子ども達と共に保育教諭も改めて安全教育の大切さを確認した。
・家庭との連携について	・Facebookの活用により、ホームページよりも少し柔らかい形で、子どもたちや給食の様子を伝える事が出来るように心がけているが、更新頻度にばらつきがあったので、定期的に更新するように心がけた。 今後は、さらに頻度を上げられるようにしていきたい。 そして、ホームページのリニューアルを行い、より園の様子を多くの方々に見ていただけるように工夫したい。 ・Webを通してストリートビューも見ていただけるようにgoogleに撮影をお願いした。 ・緊急連絡を行うために「JMOBILE」のメールサービスを導入した。 ・今まで写真を幼稚園から手渡し販売していたがWeb販売(くみーを導入した。)
・環境整備の充実	・昨年の反省を基に、園庭の遊具の見直しを行った。移動可能な遊具(さんご)と鉄棒、大型プールを購入し、子どもたちの体力作りに役立てた。引き続き、園庭遊具の点検をするともに、より安全で整った環境にするために古い遊具の撤去や新しい遊具の購入も視野に入れ検討していきたい。 ・ひよこハウスの利用も増え、今年度は定員いっぱいまでたくさん受け入れを断った。新ひよこハウスが出来上がるまで子どもたちは敷地内の空き部屋を利用して安全に注意しながら保育を行う。 子どもたちの人数も増えたため、昼食時のお手伝いを教会の方に来ていただいた。保育教諭の人数配置や保育状況を踏まえ、誰でも自分の担当クラス以外のへりに入る事が出来るように幼稚園とひよこハウスの連携を図り、環境を整えたい。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果、及び今後取り組むべき課題

・教職員は、各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来るよう、心がけた。その中で園児一人一人に必要な援助を研修や園内の協議で分かちあったことを踏まえ、実践するよう努めている。 特に研修面では、小規模園で保育園部分もあることから、決して多い保育教諭の人数ではない中、保育教諭の資質向上も鑑みて特に積極的に外部研修にも参加するようにした。 ・事前の準備をより入念に行うことによりね行事だけでなく、通常の保育もさらに充実させることが可能だと思うので、園長以下、主任、担任、副担任、補佐、それぞれの職務をその都度確認し、今後より密なる連携を図り一層の努力を重ねていきたい。 ・ひよこハウスの利用者も増え、今年度は定員いっぱいまでたくさん受け入れを断った。新ひよこハウスが出来上がるまで子どもたちは敷地内の空き部屋を利用して安全に注意しながら保育を行う。 子どもたちの人数も増えたため、昼食時のお手伝いを教会の方に来ていただいた。保育教諭の人数配置や保育状況を踏まえ、誰でも自分の担当クラス以外のへりに入る事が出来るように幼稚園とひよこハウスの連携を図り、環境を整えたい。
---

## 5. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会は、教職員への聞き取り、普段の保育の見学を行い、上記自己評価は正当に評価されていると認める。なお、今後取り組むべき課題に関しては引き続き努力することを求める。
---

## 6. 上記学校関係者評価を学校法人真愛学園理事会は2018年度第1回理事会において確認の上、承認した。

2017年度卒園児(人)		
	男の子	女の子
卒園児	1	12
計	13	

## 小学校 入学状況(人)

東小学校	愛宕小学校	藤里布小学校	秋明小学校	大竹小学校	小方小学校	その他	計
5	1	1	1	2	2	1	13

## 2018年度 園児在園状況

組名	1号利用						2号			3号			合計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計				
たんぽぽ							3	1	4			4	
うめ							4	8	12			12	
もも	7	8	15	1	4	5						20	
ゆり	5	5	10	2	4	6						16	
すみれ	8	6	14	12	2	14						28	
計	20	19	39	15	10	25	7	9	16			80	

## 通園状況(人)

岩国市	76
大竹市	3
柳井市	1